



宮司プレス 百十一号

彦島八幡宮 宮司 ニュース

発行者 彦島八幡宮

宮司 柴田 宜夫

発行 平成二十八年 二月二十一日

◇宮司の柴田です。今年初めての宮司プレスの発行です。発行の遅れのお詫びや、その弁解等で、紙面を埋めることを自戒（じかい）したつもりです。しかしながら、とうとう、先月発行叶わず、再び六ヶ月遅れとなつてしまい、やはり、お詫びを申し上げなければと、冒頭の紙面を埋めております。私の悪しき「ルーティン」になりつつあります。皆様、お待たせしました。宮司プレス百十一号の発行です。

◇さて、今年は、昨年に引き続いて、「年内立春」でした。旧暦のお正月、一月一日が、二月八日でしたので、旧暦で新年を迎えていないのに、新暦では、立春を過ぎ、暦の上では春を迎えているという、これが、「年内立春」です。旧暦で申しますと、今日が、一月十四日、明日が小正月、したがって、この宮司プレス百十一号、かろうじて、旧暦の「松の内」の発行ということになるのです。

◇私、この彦島八幡宮の宮司家である柴田家に婿入りして、早二十七年が過ぎました。先月の二十四日から二十五日の大雪、二日間

雪がとけなかったのは、この二十七年のなかで初めてのことでした。

◇不摂生をしたわけでもなく、思い当たる節もなかったのですが、一月三十日からインフルエンザB型に罹患（りかん）しました。年末に予防接種をしていたことが功を奏（そう）し、二日で熱も下がり、二月三日の節分祭には、支障なく御奉仕が叶いました。倫理法人会で配布され、経営者モーニングセミナーで唱和する「万人幸福の栞」のなかに、「肉体は精神の象徴 病気は生活の赤信号」と書かれています。少し、大げさですが、健康を一時的に失ってはじめて、人は生かされて生きていることを実感させられます。当たり前の日常が、実は、とても尊いことだと気づかされるのです。二日間は、病の臥所（ふしど）でしたが、残りは、布団にくるまりつつ、読書三昧（どくしょさんまい）の二日間でした。

◇明治時代の中ごろ、板垣退助らと共に自由民権運動に身をゆだねた旧土佐藩士の植木枝盛（うえき えもり）は、「その胸中に未

来がある者、それを青年という。その胸中に過去がある者、それを老年という。」と述べていらつしやいます。アメリカの詩人であるサムエル・ウルマンも、「青春」と題する詩に、「青春とは人生のある一定の期間を言うのではなく心の持ち方を言う。怯懦（きょうだ）を退ける勇氣と安易を振り捨てる冒険心を意味する」、さらに、「年を重ねただけで人は老いない。理想を失うとき初めて老いる」とつづられています。日銀が、マイナス金利を導入したり、マイナンバー制度をはじめまりましたし、円安や株安等、世相はめまぐるしく変革しています。今年の干支（えと）は、「丙申（ひのえさる）」ですが、「丙（ひのえ）」は、陽気が更に発展し、曲がり角にある」という意味ですし、「申」は、伸で、「新しい力が伸び広がる、チャレンジ」を表しています。そのような年まわりなのだとも痛感させられます。やはり、どんな時にも、「きつとよくなつていくんだ」「輝かしい未来なのだ」という希望を持ち続けていく、その希望を共有できる家族や仲間をつなぐりを大切にしなければと思います。

◇葉室麟（はむろ りん）さんの「蒼天見ゆ」という本を読了（どくりょう）しました。幕末に、失意の内に暗殺された父の敵を果たそうと、明治時代に禁止されていた「仇討（あ

「うち」を成し遂げたと、天野六郎さんというのが主人公です。その六郎さんは、母から、無くなった父の教えを聞かされます。

「青空を見よ。時に曇り、雷雨(らいう)ともなるが、いずれ青空が戻ってくる。それを信じれば何があるとも悔いることはない。いかなる苦勞があるとも、いつか頭の上には青い空が広がる。そのことを忘れるな。蒼天を見よ。」、自らが何をなして参ればよいか思い迷ったときの心構えを諭(さと)されたのです。思わず、落涙しました。

◇「雨過天青雲破処(うかてんせいくもやぶるところ)」、これは唐の皇帝が、このような色の青磁(せいじ)の壺(つぼ)を欲(ほつ)したという言葉です。その意味は、雨が止み、雲の隙間(すきま)からのぞいた青空の青こそ、もつとも澄み切って清々しい青だということです。雨が過ぎ、雲が破れたところから覗(のぞ)く澄み切った青空、それこそが、植木枝盛さんが仰った「未来」であるし、サムエル・ウルマンの言う「理想」にほかならないと思うのです。潔(いさぎよ)い澄み切った心、それでいてぶれない強い心、それは、まさに、神信心にもつながります。きつと神様が守ってくださることを信じるからこそ、青空を見ることができると

ではないでしょうか。「雨過天青雲破処」の心構えを忘れずに生活したいものです。ご自愛をお祈り申し上げます。

◇一月の祭典行事報告

▼歳旦祭

□本宮 *一月一日 午前八時半

□兼務社

◆田の首八幡宮

*一月一日 午前〇時半

◆六連島八幡宮

*一月十一日

□末社

◆福浦金刀比羅宮

*一月一日 午前一時

◆貴布禰神社 午前六時半

▼元始祭 *一月三日

▼会社関係安全祈願祭参拝

*一月三日、六日

▼月次祭 *一月十五日

▼どんど焼き

◆本宮 *一月十七日

◆田の首八幡宮 *一月十六日

▼養殖わかめ火入式 *一月十九日

▼朝粥会 *一月二十一日 ※小豆粥

◇一月の宮司の行事会議等活動報告

▼八幡宮関係団体

◆早起会新年会 *一月十日

◆田の首八幡宮新年会 *一月十六日

◆維蘇志会新年会 *一月十七日

◆山口県神社庁、同下関支部関係

◆山口県神社総代会役員会

◆神社庁顧問参与会 *一月二十日

◆下関支部新年総会 *一月二十五日

▼西ロータリークラブ

◇例会 *一月十三日、二十七日

▼講演活動

◇下関老人大学講話

*一月九日

◇下関RC卓話

*一月十三日

▼教誨活動、美祿社会復帰促進センター

◇集合教誨(女子)

*一月十八日

◇集合教誨(男子)

*一月二十五日

▼倫理法人会

◆下関市倫理法人会

◇早朝清掃奉仕、参拝 *一月六日

◆下関市中央倫理法人会

◇参拝 *一月五日

◇経営者モーニングセミナー

*一月二十一日 ※朝粥会に参加